

代表的な英語の辞書では、「ウェブスター」では、「公正性」とは、一般に認められ確立された掟（おきて）、またはゲームや他の競争的活動のルール、に従つていること」と定義される。公正性を語るには、それが基準とするルールが何かを考えなくてはならない。

マーシャルによれば、昔から市場では、お客様に逃げられてしまうほど高い利潤率は公正ではなく、ビジネス

## やさしい経済学

### 危機・先人に学ぶ マーシャル

#### 4 競争というルール

スがしばらくでしまうほど低い利潤率も公正ではない、と考えられてきたといふ。

この考え方は、ルネサンス時代から培われてきた「レックス・メルカトリス（商務法）」という法体系に基づいている。この法体系は定期市などの場で商業に関わる人々によって作られた。現代では米国のM&A

（合併・買収）法にも引き継がれ、国際商務の調停の際にも有効と言われている。

レックス・メルカトリスの下では、売り手と買い手が価格に合意できないまま

取引を行つてしまつた場合、別の場で同じような品物が同じような状態で取引された際の価格が公正だとみなされる。つまり、公正

な価格というのは、取引に実際に従事する売り手と買

い手が決めるのではなく、競争的な立場にある売り手と買い手の取引によって定まるということである。

このような考え方が形作られたのは、参加希望者を締め出しあつはならないといふ市場競争の本質が、中世以来、直観的に理解されて

京都大学教授 矢野 誠

单一の売り手に独占権が与えられ、競争者が締め出されば、買い手が納得する公正な価格は形成されにくい。買い手は「法外」な価格を払わされたと感じて

いたからであろう。市場は自由に入り出しきり、参加者を選別しないルールだからこそ、逃げようとする顧客を縛りつけて高い価格を強制するのは公正ではない、

とマーシャルは考えたと解釈することもできる。

しかし、それをもって公正と即断することはできな

い、というのが中世以来の伝統的ルールが教えるところである。価格の良し悪しは公正性という基準で定まり、その基準の理念は競争にあるといつ筆者の考え

も不思議ではない。

独占権は政府が与えるこ

とが多く、その意味では独

占価格も「法の内」である。